農作物の生育状況と今後の見通し・農作業安全について（10月）

鳥取県農業気象協議会
（鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ）
令和8年10月15日現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稲	・ひとめぼれ、コシヒカリ、星空舞の収穫は概ね終了したが、収穫期の降雨によって倒伏が進み、作業が遅れ気味となる地域も見られた。現在、きぬむすめの収穫もやや遅れ気味で進んでいる。 ・全般に紋枯病の発生が多く、倒伏とともに病徴の上位進展と蔓延が見られた。また、きぬむすめを中心としたごま葉枯常発ほ場では、発生程度が大きい印象。一部でもみ枯細菌病や稲こうじ病の発生もみられる。 ・防除の徹底により、イネカメムシの吸汁による不稔事例は聞かれない。 ・夏季高温により、コシヒカリでは白濁未熟粒が発生し、他品種と比較して1等比率が低下している。星空舞、きぬむすめは、コシヒカリよりも整粒が多く、現時点での1等比率は高い。格落理由は斑点米のほかに未熟粒が多く、カメムシ吸汁害以外の着色粒、倒伏や刈遅れの影響によると考えられる光沢のない形質不良粒が見られる。 ・収量は前年並で、平年並からやや良い印象の農家が多い。	・奨励品種全てで刈取適期を経過しているため、晴れ間を逃さず速やかに収穫する。
	大豆	・生育は概ね順調であるが、一部で湿害や干ばつ害による苗立不良を要因とする生育量不足で、大豆茎葉による被覆が不十分で雑草が繁茂したほ場が見られる。 ・一部でハスモンヨトウによる食害が見られるが、葉焼け病等その他の病害は発生が少ない。 ・星のめぐみが落葉期、サチユタカ、タマホマレは黄葉～落葉始期となっている。 ・干ばつ等の水分ストレスの影響により、着莢がやや不良となったほ場や遅れた事例があり、登熟にムラが見られるほ場が散見される。	・大豆子実水分20%以下、茎水分50%以下となる時期を刈取適期とし、晴れ間を見ながら刈遅れないように適期収穫を行う。 ・コンバインへの雑草と泥の混入を防止するため、収穫前の雑草除去と刈高を高めに設定した収穫作業を徹底する。
果樹	ナシ	・晩生梨の「新興」の収穫中で10月８日から販売されている。 ・「王秋」査定会が10月13日に開催され、10月16日から販売開始する。査定結果では例年よりも小玉だった。今年も猛暑だったことからコルク状果肉障害の発生が心配されたが、前年、前前年よりも少ない。 ・10月11日の「王秋」の果実発育調査結果は、横径が107.6mmであり、前年比平年比ともに99%だった。	・「王秋」の無袋栽培では、高温で推移すると熟期が例年よりも早い園があり、採り遅れにならないよう注意する。 ・土壌改良を行い、天候不順の年でも安定して収穫量があるナシ園を目指す。「王秋」のコルク状果肉障害が発生している園では深耕を行って細根を増やす。 ・黒星病の多発園では収穫後も防除を行い、落葉処理も行って越冬菌密度を減らす。
	カキ	・「輝太郎」の査定会が9月28日、「西条」の査定会が10月1日に開催され、販売が始まっている。どちらも果実肥大、糖度ともに平年並だった。近年、９月以降も高温が続くことから着色が遅れるが、今年の着色の進みはまずまずで前進出荷になっている。 ・「輝太郎」では、激発ではないものの、降雨に伴う裂皮が発生している。また、園によってはカメムシ被害が見られる。 ・「富有」の10月11日の果実発育調査結果は、3園の長径平均が81.3mmであり、前年比105%（13日早い）・平年比102%（5日早い）である。	・選果基準の果色に合わせて、適期収穫を徹底する（「輝太郎」：ヘタまわりが輝太郎カラーチャート7以上、「西条」：青秀以上はヘタより1cm程度離れた部分が西条カラーチャート3.5以上）。朝夕は果色が分かりにくく、未熟果を収穫する恐れがあるので、着色状況がわかる日中に収穫する。 ・炭疽病の罹病果は伝染源となるので園外に持ち出し処分する。
	ブドウ	・「シャインマスカット」の出荷販売が終盤になっている。本年は、猛暑の影響による小粒や縮果症・かすり症等の障害は少なかった。	・収穫後の礼肥、病害虫防除、摘心作業等を実施し、健全な葉を保って来年産に向けて樹体内の貯蔵用分を確保する。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・３～４月どりは生育中。５月どりは１０月上旬頃に定植。高温により定植を遅らせたほ場は多く、干ばつ前に定植したほ場ではかん水を行われた。適度な降雨があり、全体的に順調に生育している。 ・ネギアザミウマ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエの発生が見られる。 【夏ねぎ】 ・９月末で収穫は終了。 ・５～６月どりのトンネル、無トンネル作型の播種が９月中旬頃から行われている。 【秋冬ねぎ】 ・８月下旬から９月の大雨の影響で最終土寄せの遅れが一部で発生したが、９月初旬以降気温の低下に伴い生育が進み、早い場所では収穫が始まっている。 ・大雨の影響で白絹病、軟腐病の発生が見られたが、昨年より欠株の発生は少ない。 ・葉枯病、黒斑病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマの発生がみられる。	・雪害対策としてバンド張りを行うとともに、降雪前に計画的な出荷を行う。 ・ネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウの防除、さび病、葉枯病、小菌核腐敗病、黒腐菌核病の病害防除を徹底する。
	ブロッコリー	・９月２０日頃から出荷開始となった。 ・花蕾形成期に高温に遭遇しなかったため、秀品率は8割以上と高い。 ・８月下旬以降の定植ほ場では８月下旬から９月下旬にかけての降雨の影響で湿害や徒長傾向がみられ、収穫の遅延や品質低下が懸念される。 ・病害は育苗期間中の黒斑細菌病や収穫期に黒すす病の発生が見られる。害虫の発生は少ない傾向である。	・黒すす病、べと病などの病害が多くなる時期なので防除を徹底する。
	らっきょう	＜福部＞ ・植付は概ね終了し、９月以降は萌芽が良く進んでいる。定植の進捗は昨年よりは早かったが、夏季の高温による進捗の遅れが見られた。降水量の増加と気温の低下により、９月以降の植付分も数日で萌芽がみられている。 ＜北栄＞ ・萌芽が始まったのは８月２０日以降で昨年と同等であった。８月下旬以降に定期的な降雨により、萌芽の揃いは良好で初期生育は順調である。 ・10月初旬からネギハモグリバエの発生が見られたが、アザミウマ、乾腐病は目立った被害は見られていない。	＜福部＞ ・ハモグリバエの発生が早く、数も多いため、定植後から2度町内放送などで呼びかけているが、ほ場によってはかなり発生が多い状況となっている。 ＜北栄＞ ・年内生育を調査し、年明け以降に対策を講じられるよう、今年度から１２月の試験掘りを実施することとなった。 ・ネギハモグリバエおよびネギアザミウマの防除を徹底する。
	ながいも	・順調にアク抜けが進んだため、ねばりっこ、長芋ともに昨年と同時期の茎片付け解禁となった（ねばりっこ10/2～、長芋10/9～）。 ・現在、栽培面積の多い生産者を中心に地上部片付けの最中。10月中下旬～年内出荷分から先に片付けている。	・掘り取り開始は10/13、荷受け開始を10/16に予定。
	トマト（夏秋）	・現状10段～11段が収穫中。ほとんど生産者は9月下旬に摘芯し、最終収穫段数は12段～13段の見込み。 ・9月下旬時点の合計出荷量は昨年比８４%、特に9月下旬は日照不足により着果が悪かったため、昨年比５７%と少なかった。 ・病害はうどんこ病、すすかび病、青枯病が発生している。重点防除害虫トマトキバガではハウス半分程度で被害発生した圃場もあった。	・選果場最終稼働日（11月14日）まで出荷できるよう、かん水、エスレル等の使用について、巡回及び指導情報を活用し呼びかけを行う。 ・10月以降も、病害虫対策で薬剤防除を呼びかける。
	ミニトマト	・収穫ピークが過ぎ、現在は例年通り日量100c/s前後の出荷量。着果負担が少なくなってきており、今後大玉傾向になる見込み。 ・トマトキバガ、コナジラミの発生が散見される。一部ほ場ではトマトキバガが大発生している。 ・気温の低下に伴い、果実の着色が遅くなっている。	・トマトキバガ、コナジラミに対する防除の啓発。 ・ハウスの保温管理を徹底する。
	アスパラガス	・出荷量が減少してきたため、既に潅水を終了し、１０月上旬で収穫を終えたほ場もある。 ・生育終盤となり、斑点病、褐斑病、茎枯病が増加している。	・収穫終了後も、擬葉の健全な黄化と褐斑病、茎枯病等の予防のため、地上部が枯れ上がるまでは引き続き防除を継続するよう呼びかけている。
	ニンジン（秋冬）	・一部8月下旬に播種されたほ場で高温乾燥による発芽不良が見られるものの、全体的には目立つ病害虫もなく順調な生育となっている。	・随時中割、追肥が行われている。
	イチゴ	・定植は早いところで9月１０日頃から始まり、一部を除いて９月末頃までに完了した。 ・定植後は概ね順調に生育し、早い農家では１０月上旬から出蕾が始まっている。 ・一部農家でヨトウムシ、ハダニの発生は見られるものの、薬剤防除で対応している。 ・育苗期間中に一部で炭疽病、萎黄病の発生がみられる。	・定植後の管理（防除、マルチ被覆、ハウス温度管理、ミツバチの導入等）を実施する。 ・次年度の親株確保のため、秋ランナーの挿し苗を行う。 ・うどんこ病やハダニ、アブラムシ等の防除を徹底する。

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
花き	シンテッポウユリ	【ハウス抑制作型（中部）】 ・9月下旬ごろから収穫が始まっている。現状の出荷は3件であり、収穫量は多く無い。曇天の影響かブラスチングが散見される。 ・病害等の発生は見られていない。	【ハウス抑制作型（中部）】 ・気温低下に伴い、夜間締め気味で管理するようになるため、病害発生に注意する
	ストック	＜東部地区＞ ・9/19および9/24～25播種（2戸）。八重鑑別を随時行っている。一部で苗立枯病が発生している. ＜中部地区＞ ・生育は概ね順調。 ・7月25日播種の花芽分化は9月24日頃（前年同日）で平年より4日遅い。その後の分化も平年よりは遅れ気味だったが、8月20日播種以降は平年花芽分化日と同時期となってきている。 ・7/25播種のアーリー系の品種で一部収穫が行われている。 ・目立った病害は見られていない。一部でハイマダラノメイガの発生が見られたが、発生は減ってきている。 ＜西部地区＞ ・中山間地では7/22播種について、ピンクアイアンは10/12から収穫が開始した。 ・目立った病害虫などはなく、順調に生育している。 ・大山地区では、8月22日までに播種された品種での花芽分化が確認された。全体的に花芽分化は去年に比べて早い。7月播種分は出蕾が見られる。 ・菌核病の発生が一部ほ場で確認された。	＜共通＞ ・菌核病、灰色かび病等の病害防除や、ハイマダラノメイガ等チョウ目の防除も引き続き行う。 ＜中部地区＞ ・8月5～20日播種分の花芽分化がほぼ一斉に入っているため、一斉収穫となる可能性が高まっている。早い播種分については電照をつける、後半の播種分については電照はつけず、開花調節をする。
	アスター	・6月下旬播種分の出荷が9/29から開始。 ・全体としてはやや遅れ気味で10月下旬ごろから出荷量が増える見込み。 ・湿害や芯どまりが一部見られた。	・7月20日以降梅雨明け播種の発芽不良や、虫の被害もあり昨年より収穫数は減る見込み。 ・出荷は12月下旬まで続く見込み。
飼料作物	イタリアンライグラス	・標高の高い地区をはじめ、播種及び播種前作業が進められている。 ・一部地域で播種前の掃除刈り（3番草）中だが、降雨の為作業が遅れ気味。そのためイタリアンライグラスの播種も遅くなる予定。	・引き続き11月まで播種作業を実施される。
	飼料用トウモロコシ	・春播きの飼料用トウモロコシの刈取が終了。 ・8月上旬に一部地域で二期作飼料用トウモロコシの播種が実施されたが、少雨の影響により、一部発芽しないほ場や発芽しても生育が不揃いなほ場が散見される。	・来春に播種される飼料用トウモロコシの準備として、引き続き堆肥散布や耕うん等の作業が進められる予定。 ・二期作飼料用トウモロコシは１１月中下旬にかけて刈取りを実施予定。

【農作業安全について】
秋の農作業安全運動期間中（9/1～10/31）
鳥取県農作業死亡事故多発警報（令和8年度第2号）発令中（10/16～11/5）

農作物の収穫時期を迎え、コンバインやトラクターなどの農業機械を使った作業を行う機会が増え、特に高齢者の単独での収穫作業中に事故が発生し、発見や対応が遅れる事例が増加しています。
農業機械の運転・操作時の安全確認や安全装置の確実な使用により、事故の発生防止や被害軽減に努めましょう。
❶安全キャブ・フレームの力を100%活かすため、ヘルメットとシートベルトの「両方着用」を徹底しましょう。
❷コンバインやトラクター等の転落は足下の確認不足から起こります。機械を動かす前の「一呼吸」を習慣づけて、周囲の安全を確かめましょう。
❸路肩の草むらの隠れた段差や傾斜を「作業前に目視で確認」し、危険箇所にポールなどを立て、必ず迂回、減速しましょう。
❹身体の疲れは、操作ミスや危険の発見の遅れに繋がります。無理な作業計画は避けることと、今日の作業予定を家族と共有し事故が起こってもすぐに救助できるようにしましょう。